

「北大農 NewPJ シリーズ学習会」報告書

北海道大学 御中

一般社団法人 札幌消費者協会
会 長 桑原 昭子

今年度のテーマ「農作物の育種って何？」に基づき、道条例の隔離距離について様々な視点で考えることを目的に、リスクコミュニケーションが行われたことを報告致します。

実施年月日	平成 26 年 12 月 13 日 (土) 12:00~16:15
会 場	北海道大学農学部4階 大講堂
講 師 名	独立行政法人農業環境技術研究所主任研究員 芝池 博幸 先生
テ ー マ	ミニフォーラム「GM作物に対する多様な考え方を知る ～隔離距離から考える北海道の農業～」
所 感	<p>〈進行方法・グループ対話等〉</p> <p>ランチタイムをはさみ、吉田先生より本日の進行方法の説明と併せて、グループ分け・役割分担の方法について説明があった。</p> <p>1 ランチタイムの効果的な使い方について</p> <p>ところどころに大学関係者と講師が入れるよう席が用意されていたが(空席が目立った)顔見知り同士が集まる傾向と、机が縦長の大きな口の字配置であったため、隣同士のコミュニケーションにとどまっていた。この時間は、事前に配布された資料をもとに当日のテーマについて気軽にコミュニケーションが取れる場として活用できるのではないかと。</p> <p>2 グループ分け・役割分担について</p> <p>簡単なゲーム形式による役割分担は、①グループ席に分かれてからの進行がスムーズに行なえる ②不公平感なく役割が決定できる ③様々な役割を経験することで参加者同士が協力し相互理解が深まる といったメリットがある反面、慣れてくるとカードを交換する参加者も見られ、役割の固定化・不公平感が生じる可能性も考えられる。全体に向けたルールの徹底も時には必要かと思われる。</p> <p>3 テーマへの認識・理解について</p> <p>コミュニケーションの基本であるテーマに対する認識の差が、参加者間でかなりあることが講師への質問やグループ対話の場面で見られた。参加者がテーマを理解するためのコミュニケーションの時間も必要と思われた。</p> <p>4 グループ対話の進め方について</p> <p>「人の意見を否定しない」等の基本的なルールは理解されていたが、ポストイットに書くことで、個々のリスクへの考え方や疑問点をグループ内で共有することへの理解が、まだ不十分であるため、進行役的な人の配置が必要と思われた。</p> <p>〈講座内容について〉</p> <p>リスクコミュニケーション力を向上させるために、座学と実習を組み合わせただの今回のフォーラムは、北海道農業のこれからを考えていくための情報を様々な角度から情報提供いただき参考になった。また、質疑応答での、講師から参加者への質問という手法は、相互理解を深める上で効果的な方法の一つと考える。</p>
報 告 者	(一社)札幌消費者協会 組織課 三上 真知子

